

財政の持続可能性への信認が失われた下での 量的・質的金融緩和政策からの出口

二羽 秀和

〈要旨〉

本稿では、政府債務を安定化させようとする財政当局の意思に対する人々の信認の喪失が、日本銀行の量的・質的金融緩和政策からの出口戦略をどのように制約するのかを検討する。モデル分析において鍵となる想定は、(1)財政当局が債務安定化に必要なプライマリー黒字の調整を行わないことと、(2)中央銀行が自身の財務健全性を維持することに対して責任を負っていることである。これらの条件の下で、一定以上の長期国債を保有する中央銀行は、利上げ局面において名目利子率の将来経路を自由に引き上げることができなくなる。

(一橋大学)